

あなたは購入派？それとも賃貸派？

- 新築一戸建て
- 4LDK・駐車場2台

購入時総額
 物件価格：2,280万円
 + 諸費用：約150万円
 総額：約2,430万円

■頭金150万円 ■借入2,280万円
 ※十六銀行金利(固定3年、年利14%) 35年返済の場合

月々総支払額:

68,698円



- 新築賃貸マンション
- 2LDK・駐車場2台

※賃貸は、駐車場2台の約60平米の物件で計算します。
 賃貸時必要金額
 賃料：8万円
 礼金：8万円
 保証金：24万円
 + 仲介手数料：約8.4万円
 総額：約48.4万円

賃料:

80,000円

★月々の総支払額の差額は、
11,302円 となりました。

住宅購入には今がチャンス!?

今ここに2,000万円の住宅があります!でも、自己資金が無い!
 でも、気に入った物件!さあ~貴方ならどうする? ※借入 2,000万円35年返済

現在の水準

借入時の金利が
 上がると

金利	毎月返済	年間返済額	総返済額	差額
1%	56,457 円	677,484 円	23,711,999 円	円
2%	66,253 円	795,036 円	27,826,073 円	4,114,074 円
3%	76,970 円	923,640 円	32,327,416 円	4,501,343 円
4%	88,555 円	1,062,660 円	37,193,078 円	4,865,662 円
5%	100,938 円	1,211,256 円	42,393,764 円	5,200,686 円

毎月5万円ずつ貯金しても
約7年かかる金額です。

金利が1%上がるだけで
約411万円のアップ

一般住宅のローン控除内容

入居した年	控除対象の住宅ローン上限額	最大控除額 (最大減税額)	控除率	控除期間
平成21、22年	5000万	500万 (50万円×10年間)	1.00%	10年間
平成23年	4000万	400万 (40万円×10年間)		
平成24年	3000万	300万 (30万円×10年間)		
平成25年	2000万	200万 (20万円×10年間)		

●控除対象の上限額:住宅ローン控除の対象となる、ローン残高の限度額のこと、毎年12月31日時点の残高が基準になります。(ただし所得税額が上限です。)
 ※住民税の減税額(1年で最大9万7500円)も含まれます。

今すぐマイホームを手に入れるのか、それとも頭金である預貯金を増やしてから購入するべきか、迷われている方も多いでしょう。

もし購入時期を延ばしたとしても、**ローン控除**もなくなり、**金利**が上がってしまえば**意味ありません**。

自己資金なしのお客様のための**110%住宅ローン**もご用意しております!

今の**低金利**、**ローン控除**をお見逃しなく!
 ※詳細はお気軽にお問い合わせください。



あなたは購入派??

それとも賃貸派??



← YES

← NO

A
(裏面へ)

あまり難しいことは
考えたくないほうだ

老後に備えて、
生命保険は
十分な金額に
加入済み

老後に備えて、
貯金はバッチリ
準備OK

一生、賃貸の方が
気楽だし身軽かも♪

start

将来、いつか
マイホームを
持つのが夢

健康には自信が
あったが最近、
体力の衰えを
感じる

転勤が多いから、
当分購入は
考えない

今の住まいは、
会社が負担して
くれている

今はまだ具体的に
購入は考えていない

B
(裏面へ)

自分はよく人に
「マイペースだね」
と言われる

自分なりに
なんとかなると
信じている

賃料を払うのは
もったいないと
思う

5年以内に貯金を
してから購入を
考えている

C
(裏面へ)

どちらかと言うと、
自分は見栄っ張りな
ほうだ

長期に渡る借入れ
返済は精神的に
不安

友達がマイホームを
買ったなら、ちょっと
羨ましい

今が不動産の
買い時だと思う

A を選んだあなたは・・・ 賃貸派！

まだ今後のライフプランが決まっていないという方、何かに縛られることを嫌い、自由さや気楽さを求めるとい方には、いつでも好きな地域・好みの間取りに住み替えできる賃貸がオススメです。選択肢の多い賃貸物件の中から、今のあなたにぴったりの物件を選びましょう。しかし、老後は賃貸が借りにくくなり、毎月の賃料は大きな出費となります。将来に向けて貯蓄をするなどの備えをしていきましょう。

B を選んだあなたは・・・ いずれは購入派！

現在借家に住んでいる全体の約半数、20代後半から30代においては約6割の方が「持ち家を購入したい」と回答しているといわれています。老後や収入など先行き不安のある今だからこそ、「持家」を将来の備えとして考え、早い時期に購入した方が得と考える堅実な志向にあるようです。家賃がもったいないと感じている方、低金利時代で税制面での優遇がある今、そろそろ購入を考えてみませんか？

C を選んだあなたは・・・ そろそろ購入派！

家を購入することは経済面でも生活面でも大きな影響を与えるため、タイミングが重要です。ライフプランはできているか、安定した収入や貯蓄があるか、家族の同意が得られているかなどを考慮して物件選びに移りましょう。
住宅ローンを組むという場合はあらかじめ専門家に相談し、いくらぐらいの物件が買えるかなどを決定していきましょう。